

成果報告書

中澤仁研究会 2024 年度夏合宿

SFC 学会 (C) 研究会合宿・研究会が主体となった学術交流活動

概要

中澤仁研究会と大越匡研究会とが合同で、学部生と院生の合同合宿を行い、個人研究成果の発表会を実施した。学部生・院生ともに、互いの研究テーマを話し合う過程や後輩の研究テーマに意見を述べる過程で、論理的かつ批判的な研究審美眼を養うことを主目的とした。これに加えて、寝食を共にすることで、緩やかな時間を使って各自の研究テーマとは直接には関係しない周辺領域の議論を行い、コロナ禍を経て失われつつある学生同士、学生と教員の繋がりを強固にすることを副目的とした。これらの達成によって、研究室からより高レベルの研究成果を生み出すことを目指した。

開催日程

2024 年 7 月 30 日(火) ~ 8 月 1 日(木)

プログラム

院生は 20 分/人、学部生のうち個人研究プロジェクトを実施したものは 10 分/人、それ以外の者はポスター発表を行なった。学部生の発表では、各自が構築したシステムのデモンストレーションを必須とした。プログラムの概要を右に示す。

2024/7/30		2024/7/31	2024/8/1
7:00	7:30	朝食	朝食
7:30	8:00		
8:00	8:30	移動・準備	移動・準備
8:30	9:00	WIP Poster Session 2 System Enhancement and Applications	WIP Poster Session 3 Sensors and Recognition Systems
9:00	9:30		
9:30	10:00		
10:00	10:30	集合・オープニングセッション	休憩
10:30	11:00	SENIOR Session 1 System and Model Enhancement	SENIOR Session 3 Sensors and Recognition Systems
11:00	11:30	REITAKU Session	
11:30	12:00	TERM Session 1	
12:00	12:30		
12:30	13:00	昼食	昼食
13:00	13:30		
13:30	14:00	WIP Poster Session 1 Visual Processing	SENIOR Session 2 Specialized Applications
14:00	14:30		SENIOR Session 4 Generative Models
14:30	15:00		クロージング・解散
15:00	15:30	休憩	
15:30	16:00	レクリエーション	
16:00	16:30		
16:30	17:00	チェックイン・荷物置き	
17:00	17:30	BBQ	
17:30	18:00		
18:00	18:30	夕食	
18:30	19:00		
19:00	19:30		
19:30	20:00		
20:00	20:30		
20:30	21:00		
21:00	21:30		
21:30	22:00		
22:00	22:30		
22:30	23:00		
23:00	23:30		
23:30	0:00		

参加者

1 年生 15 名、2 年生 20 名、3 年生 16 名、4 年生 10 名、院生 16 名に加えて、卒業生 1 名が参加した。このほか、開催地である麗澤大学工学部より陳寅先生、公立ほこだて未来大学より博士課程 2 名が参加した。

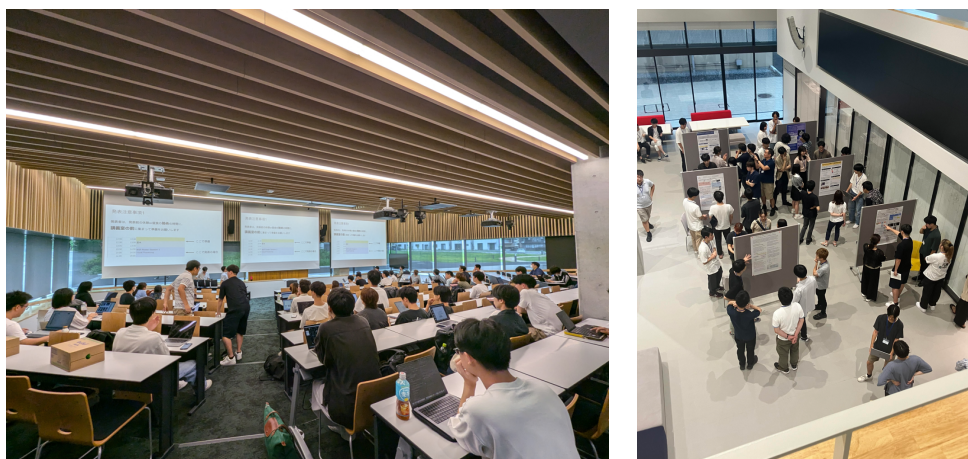
開催結果

学部生による発表では、まずポスター発表において学生同士が議論することで、学期中の限られた時間では困難な意見交換が実現できた。この議論を通じて自らの研究テーマおよび研究過程に関する気づきを得た学生も散見された。また個人研究プロジェクト発表では、現時点の成果に基づいて学会での口頭発表やジャーナル論文としての発表に繋げられる可能性、またそれを視野に入れた研究テーマの高度化に関する意見交換を行えた。このような、学部生同士の意見交換を通じて、他者の研究を批判的に捉えて分析的に思考する力の醸成を促進できたと考えられる。

次に院生による発表では、学部生に対して次のステップを示すことができたと考えられる。当研究会は人数が多く、院生と学部生との間に多対多の関係ができづらいが、本合宿では日常的に相對しないそうした学生同士が議論することで、自らの研究テーマの幅を広げること、あるいはそれを深めることに関する考察を促進できた。

さらに麗澤大学、YRP 研究開発協会およびはこだて未来大学からの特別講演では、無線指紋技術や低消費電力広域ネットワーク（LPWA）技術に関する研究発表を拝聴できた。同技術は当研究会では扱っておらず、従ってそれに関する知見は研究会の全メンバーにとって新しく、貴重であった。

以上を総合して、本合宿の開催を通じて、論理的かつ批判的な研究審美眼の醸成、学生同士、学生と教員の繋がり強化、およびそれらを通じた高レベルの研究推進に繋がったと考えられる。



口頭発表会場とポスター発表会場の様子

謝辞

本合宿は、慶應 SFC 学会による研究助成金を受けて実施された。助成金による経済的負担の軽減は、学生の積極的な参加を促し、最終的には研究会メンバーのほぼ全員が参加することができた。宿泊先の麗澤大学および陳寅先生をはじめとする同大学の方々には、さまざまな調整、配慮を行っていただき、円滑な合宿を実施することができた。重ねて感謝申し上げる。